

平成23年度 長岡市ふるさと創生基金事業提案調書

課 名	地域振興課 教育支援係
記入者名	藤田 豊

事業名	平成23年度 小国芸術村特別展 「紙の使い手」小川原めぐみ作品展												
	(単位:千円)												
	総事業費	H17～26計	残事業費	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
事業費										560			
事業目的等(何を達成するものなのか、将来構想にどう結びつか)					事業実施の効果(実施のメリット、実施しないデメリット)								
昭和63年度から小国地域内の芸術文化振興・交流・地域振興の拠点として設置された「小国芸術村」この主要施設である芸術村会館において「和紙」に纏わる縁により特別展を開催する。手すき和紙を基として開催される催事と併せ、交流・体験を行うことにより、今後も無形文化財「小国和紙」の発信と「和紙」のご縁による紙作家等の交流を図っていききたい。					・手漉き和紙からできる作品を鑑賞することにより鑑賞者の感性を育む。 ・児童生徒が第一線で活躍されている作家と直に接し、作品に触れ、手ほどきを受けることは、子ども達に夢を与える。 ・より多くの作品に進化していく「小国和紙」の魅力をより多くの人に伝えることができる。 ・都市との交流の一環として、小国の情報発信の一翼を担う。								
事業概要(内容と事業の進め方など)					事業実施に係る背景等(根幹的な事業として提案した理由)								
紙郷として数百年の歴史を継ぐ当地区山野田に、20年余りに亘り工房を構え、和紙一枚一枚に自らの手で染色、描画している紙作家の作品に、紙工芸作家小川原めぐみ氏が屏風、灯り、コラージュ、額、軸などに仕立てた作品を展示するもの。 併せて、小国地域3小学校を小河原氏が巡り、小国手漉き紙を使った作品作りの特別授業を行う予定。児童に自分の手で作ることの楽しさや地元小国紙をより身近に感じる感性を育むもの。					小国地域は、産業や観光面から考えても、小国和紙の存在は大きい。和紙製造過程での「かんぐれ」という技法は、小国地域の文化や生活から生まれたもので、国の無形文化財にも指定されている。これらを通し、小国和紙発祥の地で地元で紙を漉く紙作家と協働でイベントを開催できるものである。								
事業実施の確実性、実施にあたっての課題等													
小国地区で工房を持つ坂本氏は、地元小学生に小国和紙の魅力を伝えたいという意欲があり、このたびの計画や小国和紙をテーマにしたイベントは小国地域の校長会との同意を得ている。学校側でも、小国和紙の魅力は地域の宝と位置づけ、総合学習などに取り入れれ充実を図っている。作品展示することにより、和紙の魅力がより多くの人々を引き付けるものと確信している。													
平成23年度事業費内訳													
小国芸術村特別展 「紙の使い手」小川原めぐみ作品展に関する費用 委託料(内訳)													
・交通費(2往復分) 120 千円													
・宿泊費(4泊分) 40 千円													
・特別授業(教材費含む) 300 千円													
・広報啓発費(ポスター・チラシ) 100 千円													
合 計 560 千円													

平成23年度 長岡市ふるさと創生基金事業提案調書

課 名	産 業 課
記入者名	阿 部 正 彦

事業名	小国の魅力発信事業												
(単位:千円)													
事業費	総事業費	H17～26計	残事業費	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
									1,544	595			
事業目的等(何を達成するものなのか、将来構想にどう結びつか)								事業実施の効果(実施のメリット、実施しないデメリット)					
<p>「小国観光協会よっていがんかい」は平成21年11月28日に設立され、小国地域の特産品の開発・販売、文化的行事の開催による誘客の増加を目指し、地域の活性化を図るための事業を展開している。</p> <p>小国地域が築き上げてきたグリーン・ツーリズムや「もちひとまつり」に代表される各種のまつりイベント等、地域観光資源を内外に発信するため、平成22年度にふるさと創生基金事業を活用し、「小国観光協会よっていがんかい」との連携により、長岡市小国町ホームページ(小国の観光スポット紹介)が開設された。</p> <p>しかし、まだ未作成のコンテンツ(歴史資料館、小国名人マップ)があるため、これらを充実させて情報発信することにより観光協会の活動を助長し地域の活性化を図る。</p>								<p>小国専用のWEBサイトを充実させることで、小国地域の観光資源、歴史的文化資源やグリーン・ツーリズム、更には魅力ある商業、地域特性を生かした工業も併せて内外に情報発信することができ、インターネット上での利便性を活かした情報発信により、地域の活性化が図られる。</p> <p>また、観光協会のサイトとして保守管理することにより、行政では情報として掲載が制限される個別(商店・商品等)のPRも可能となる。</p> <p>なお、長岡市ホームページからもリンク可能とし、汎用性を拡大することが可能となる。</p>					
事業概要(内容と事業の進め方など)								事業実施に係る背景等(根幹的な事業として提案した理由)					
<p>平成22年度に長岡市小国町ホームページ(小国の観光スポット紹介)が開設されたことにより、YAHOOやGOOGLEなどのインターネット検索サイトで「長岡 小国」を検索することで、全国だれでも小国の魅力(小国地域の観光名所やイベント情報など)を発見できるようになった。</p> <p>平成23年度は、更に未作成のコンテンツ(歴史資料館、小国名人マップ)を完成させ、きめ細かい観光情報や文化的行事等を発信することができ、新しい情報を何時でも更新が可能な小国専用のWEBサイトを充実させる。</p>								<p>大河ドラマ「天地人」放映を契機に、小国よっていがん会が小国地域を積極的に内外に発信していく組織として、記念碑の建立、ガイドの養成やPR活動を実施してきた。</p> <p>そして、放映終了後の観光対策を今後とも確固たるものにするため、平成21年11月28日に「観光協会よっていがんかい」が設立された。</p> <p>このことにより、観光協会の機能を補完しながら常に新しい情報を内外に発信できる小国専用のホームページを開設するもの。</p>					
事業実施の確実性、実施にあたっての課題等													
<p>「観光協会よっていがんかい」には、ホームページ部門の担当が設置され、システム構築後の保守管理に問題は無い。</p> <p>課題としてシステムのメンテナンスが後年にわたり必要となるが、行政のサイトと異なり、観光協会のサイトとして保守管理し、ホームページ上に小国の商店や企業の広告を有償で掲載することにより、メンテナンス費用を担うことが可能である。</p>													
平成23年度事業費内訳													
ホームページ作成に関する費用 委託料(内訳)													
・企画費 160千円													
・デザイン費 238千円													
・コーディング費 168千円													
・消費税 29千円													
												合 計	595千円

平成23年度 長岡市ふるさと創生基金事業提案調書

課名	小国支所市民生活課
記入者名	岩野 守男

事業名	(仮)小国地域のこれからの医療と福祉を考えるシンポジウム ～一人ひとりの住民が支えていく小国地域を目指して～												
	総事業費	H17～26計	残事業費	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
事業費										1,000			
事業目的等(何を達成するものなのか、将来構想にどう結びつくか)										事業実施の効果(実施のメリット、実施しないデメリット)			
<p>小国地域では人口の減少とともに少子高齢化が急速に進行している。高齢化が進む中で地域の暮らしや健康を守り、医療環境を維持推進していくことが大きな課題となっている。地域におけるこれまでの医療や福祉環境の変遷をふまえ小国地域が抱える医療・福祉・保健の現状と課題を共有し、今後の方向性を考える機会とするため、広く地域住民の参加を募り地域医療等への理解を深めることを目的にシンポジウムを開催する。</p> <p>地域委員会第1分科会がH21～22年度の2か年にわたり検討してきたことを、シンポジウムを開催することで、地域住民へアピールすることができる。</p>										<p>小国地域の住民が住み慣れた地域で必要な医療を受けながら安心して生活していくためには、医療関係者だけでなく、住民一人ひとりが医療の一方の担い手であることを認識し、地域の医療を支えていくことが求められている。シンポジウムでは、「一人ひとりの住民が地域の医療を支えていく」という視点から、住民ができることは何か、参加者とともに考える機会とする。またマン・パワーによる広報PRに努め、広く地域住民の参加を募る。さらにシンポジウムの内容を報告書としてまとめ、小国地域内各世帯に配布して地域医療への“思い”の共有化を図る。</p>			
事業概要(内容と事業の進め方など)										事業実施に係る背景等(根幹的な事業として提案した理由)			
<p>【シンポジウムの内容】</p> <p>第1部 基調講演会 演題「(仮)「地域医療の現状と課題について」 講師:金子医師(小国診療所所長)</p> <p>第2部 パネルディスカッション テーマ「(仮)小国地域のこれからの医療と福祉について」 コーディネーター:金子医師</p> <p>パネリスト 医療関係者・福祉関係者・保健関係者・一般住民3名 計6名程度</p> <p>第3部 特別講演会 演題「未定」講師「未定」 報告書の作成</p> <p>【実行委員会の組織化】</p> <p>地域委員会第1分科会委員、医療機関、福祉施設等、市民生活課等で実行委員会を組織する。</p> <p>【事務局】 小国支所市民生活課</p>										<p>小国地域の人口は、過去10年間で1100人以上減少し、今後もさらに減少傾向は続くものと思われる。特に15歳から64歳の生産年齢人口の減少が顕著であり、その7割を占めている。また14歳以下の子どもの減少率は10年前に比べて40%を超えている。このように少子高齢化が急速に進行する中において、現状の地域医療を存続させていくための課題を地域全体で共有し、住民一人ひとりの問題として捉えていくことが地域活性化にもつながるものと思われる。</p>			
事業実施の確実性、実施にあたっての課題等													
<p>手順として、下記のとおり順次行っていく。</p> <p>基調講演者の金子医師やシンポのパネリストなど、地域内からの講演者等の依頼・調整 特別講演者の候補選定 日程・会場の調整 開催要項の策定 広報PR 開催 報告書の策定、配布</p> <p>なお、シンポジウム開催のポイントとして金子先生、横田先生の概ねの理解を得ることができている。この機会に地域委員と連携して開催したい。</p>													
平成23年度事業費内訳													
(仮)小国地域のこれからの医療と福祉を考えるシンポジウムに関する費用(内訳)													
・特別講演者謝		300	千円										
・旅費、通信費など		40	千円										
・パネラーの謝金		80	千円										
・広報PRチラシ(2,200枚)、ポスター(50枚)		100	千円										
・シンポの看板等(5枚)		50	千円										
・報告書作成費(2,200部)		380	千円										
・その他諸雑費		50	千円										
				合 計	1,000 千円								

(単位:千円)